

オオキンケイギク（学名：*Coreopsis lanceolata*）

【分類】双子葉植物 合弁花類 キク科 ハルシャギク属（＝コレオプシス属）

【本種と近縁な未判定外来生物】なし

【本種を含む種類名証明書添付生物】ハルシャギク属の全種

【その他の学名】*C. crassifolia*, *C. heterogyna*

【外国名】Lance-leaved tickseed

【別名・販売名】コレオプシス（ハルシャギク属の総称）

【輸入・流通形態】「wild flower」等の名称で種子が輸入される他、苗が流通していたが、現在は外来生物法により輸入や流通は規制されている。

【原産地と侵入地】アメリカ合衆国中部、南東部（ミシガン州～フロリダ州、ニューメキシコ州）原産である。オーストラリアでは侵略的な外来種の一つとされている。日本では全国に分布する。

【形態的特徴】

花：開花期は5～7月（写真1）。他のキク科植物と同様、小さな花（舌状花*と管状花*）が多数集まって直径5～7cmの頭状花*を形成している（写真2）。舌状花*は黄橙色で、花びらの先は不規則に4～5つに分かれる。管状花*も同様の色（写真3）。頭状花*のまわりは二重になった総苞片*に取り囲まれている（写真4）。



写真1 満開のオオキンケイギク
(2008. 6. 1／長野県下伊那郡天竜川)



写真2 オオキンケイギクの頭状花
(2008. 6. 1／長野県下伊那郡天竜川)



写真3 オオキンケイギクの管状花
(2009. 6. 28／山梨県北杜市)

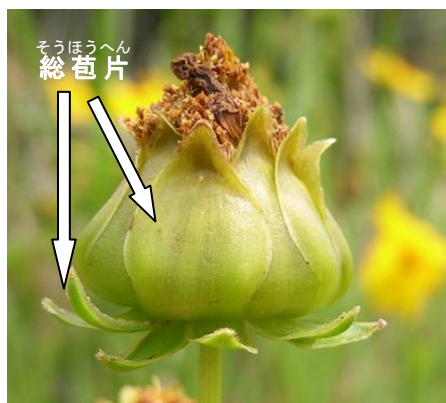


写真4 花びらが散った後の頭状花の外側を包む総苞片
(2008. 6. 7／岐阜県各務原アウトドアフィールド)

茎：高さ 30—70cm で、根元付近から束状に多数生えている。多年草*のため、2 年目以降はススキのように株立ち状になることが多い（写真 5）。

葉：根元から生えてくる根生葉*は、生育初期は細長いへら状で（写真 6）、生長が進むにつれて 3—5 枚の小葉*に分裂する（写真 7）。茎から生えてくる茎生葉*も同様の形であるが、葉柄*は短く、対生*することが多い（写真 8）。両面とも粗い毛がある。越冬時はロゼット状*となる（写真 9）。

注：オオキンケイギクにはさまざまな園芸品種があり、矮生品種の他、花の色がクリーム色、黄色、黄橙色のものや、舌状花*の根元が褐色のものもある。

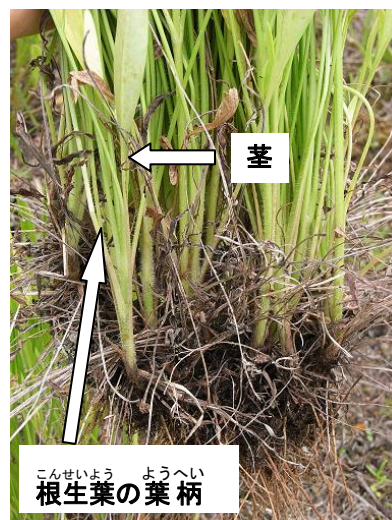


写真 5 束状に生える茎と柄の長い根生葉（2008. 6. 7／岐阜県各務原アウトドアフィールド）



← 写真 6 生長初期の根生葉（2009. 4. 5／茨城県大子町）



写真 7 生長が進んだオオキンケイギク個体（左）と小葉に分かれた葉（右）（2009. 4. 5／茨城県大子町）



写真 8 オオキンケイギクの茎生葉（2009. 5. 22／東京都八丈島）



写真 9 ロゼット状のオオキンケイギク（2004. 3. 19／東京都江東区木場公園）

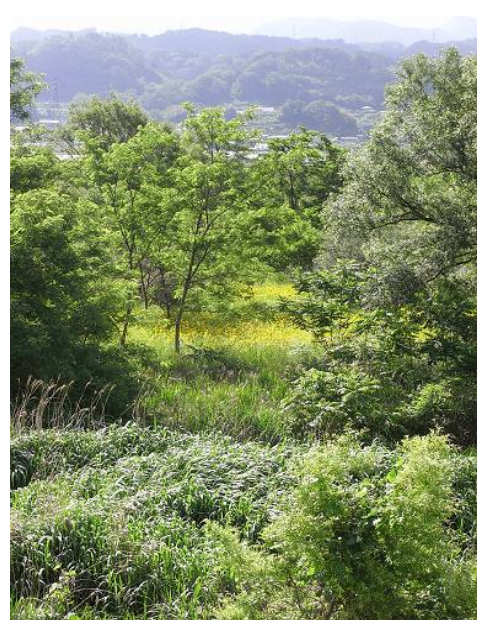


写真 10 路傍で満開のオオキンケイギク（左）と、
コンクリートの法面上に生育するオオキンケイギク（右）
(2008. 6. 1／長野県下伊那郡天竜川)



写真 11 河原で結実しているオオキンケイギク（左）
(2008. 6. 7／岐阜県各務原市)

中州に侵入したオオキンケイギク（右）
(2008. 6. 1／長野県下伊那郡天竜川)



【生態的特徴】

生活型：陸生の多年草*。

生育環境：温帯に分布する。路傍、河川敷、線路際、海岸など、日当たりの良い所に生育する（写真 10、11）。

繁殖特性：昆虫類に受粉を頼る虫媒花。果実はヒマワリ等と同様の瘦果*（写真 12）をつけるが、側面に薄い翼があるのが特徴で、風に飛ばされやすくなっている。

影響：河原で繁茂し、河原特有のカワラサイコやカワラナデシコなどの在来種と競争し、駆逐する事例が国内で見られている。

【ハルシャギク属（コレオプシス属）の特徴】

ハルシャギク属が含まれるキク科の植物は約 1000 属に分類されており、そのうちの約 80 属が日本に分布する。ハルシャギク属の植物は、アメリカ、熱帯アフリカ等に分布し、100 種類以上が知られる。一年草*または多年草*。葉は対生*、まれに互生*、全縁*またはいろいろな程度に分裂する。頭状花*はやや長い柄の先に、一つ～複数ずつつく。総苞*は2列で、各列8片からなり、外列のものは葉状で内列の



写真 12 オオキンケイギクの
瘦果* 翼があるのが特徴
(2007. 7. 16／京都府立植物園)

ものより幅が狭く、基部は合着する。頭状花*の周辺にある舌状花*は通常8個あり、黄色、淡紅色、または2色の蛇の目になる。頭状花*の中心にある管状花*は黄色または帯紫紅色。瘦果*にはふつう翼があり、片側の面は平らで反対側は突出している。冠毛*は、剛毛、短い鱗状、齒状または無い。

ハルシャギク属の植物には観賞用に育成された園芸品種が多く、それらの中には形態的特徴が大きく変化しているものがある。これらの園芸品種のうち数十種類の種子や苗（花のついているものを含む）が日本国内で流通しており、種子の輸入も行われている。

【近縁種・類似種との識別点】

ハルシャギク属の在来種は日本にはない。明治時代以降に、オオキンケイギク、ハルシャギク（ジャノメギク）*C. tinctoria*（写真13）、キンケイギク *C. drummondii* (*C. basalis*)、ホソバハルシャギク（グランディフローラ）*C. grandiflora*（写真14）、イトバハルシャギク（パーティキラータ）*C. verticillata*（写真15）、ロゼア *C. rosea*（写真16）などの様々な種（及び交雑種）が流通している（JFコードセンター）（写真17～写真21）。

これらのうち少なくともハルシャギクは各地で野生化している。キンケイギクやホソバハルシャギクについては記録があるものの、野外での生育の実態は明かではない。

杉本（1978）には、これらの一部を含む以下の検索表が掲載されている。

A. 葉は掌状に全裂し、輪生する。葉の裂片は糸状。管状花、舌状花ともに黄色。・イトバハルシャギク

A. 葉は単葉または羽根状に裂け、対生する。

B. 管状花は黄色。

C. 葉の裂片は披針形～広披針形。舌状花は不稔。

D. 根生葉が多く、茎葉は1～2対で単葉または1～2対の側羽片がある。・オオキンケイギク

D. 葉は全て茎につき、対生または複生する。・ホソバハルシャギク

C. 葉の裂片は糸状。舌状花は結実する。・ハマベハルシャギク

B. 管状花は紫褐色、舌状花の基部も紫褐色。

C. 葉の裂片は長楕円形～卵形。総苞外片と内片は同長。植物体は有毛。・キンケイギク

C. 葉の裂片は線形～線状披針形。総苞外片は内片より長い。植物体は無毛。・ハルシャギク



写真13 同属種のハルシャギク *C. tinctoria*

満開の様子（左）と花（中央）（2007. 6. 21／栃木県足利市岩井町渡良瀬川）

生育途中の個体（右上）と葉（右下）（2009. 5. 21／東京都世田谷区二子玉川）



写真 14 同属種のホソバハルシャギク *C. grandiflora*

全体（左）、茎葉（中）、花（右上）は東京都狛江市多摩川で採集したもの（2009. 7. 9 撮影）
果実（右上）は市販品（2009. 7. 28 撮影）、生育状況（右下）は東京都八丈島（2007. 5. 28）



写真 15 同属種のイトバハルシャギク *C. verticillata*

左：2007. 6. 23／名古屋市東山植物園、
中：2007. 7. 16／京都府立植物園

写真 16 同属種のロゼア *C. rosea*

右上：2009. 8. 2／
千葉県松戸市のホームセンター
右下：2007. 6. 28／
東京都江東区木場公園





写真17 店頭で販売される様々なコレオプシス
 左上：ロゼア *C. rosea* とイトバハルシャギク *C. verticillata* の苗
 右上・右下：ゴールドナゲット *C. 'Gold Nugget'*
 (2009. 8. 2／千葉県松戸市のホームセンター店頭)



写真18 同属種のコレオプシス・プ
 ベスキンス *C. pubescens*
 (2009. 9. 22／京都府立植物園)

写真19 コレオプシスの八重品種
 (2009. 6. 7／山梨県大月市)

写真20 コレオプシスの矮生品種
 (2008. 6. 21／神奈川県横浜市)



写真21 オオキンケイギクの園芸品種と
 思われる八重咲きのコレオプシス
 上：花、右：全体
 (2007. 6. 2／神奈川県相模原市)

合衆国の南部と西部でみられるハルシャギク属 13 種類の検索表 (Britton, N. L. and H. A. Brown, 1970)

- A. 花柱の先端は尖っている。総苞外片と総苞内片の長さはほぼ同じである (*C. triperis* は除く)。
- B. 葉は単葉、または羽状に裂ける；瘦果には、しばしばカーブした内側に肥厚部分 (callus) がある。
- C. 瘦果には、薄くて平らな幅広い翼がある。
- D. 葉は、ほとんど茎の基部につき、頭花の花柄は長い。
- E. 無毛、または下の方にわずかに毛がある・・・・・・1. オオキンケイギク *C. lanceolata*
- E. 軟毛または粗毛が生えている・・・・・・2. *C. crassifolia**
- D. 葉は、花柄が短い頭花の近くにつく。
- E. 軟毛または粗毛が生えている；葉は全縁、または少数の側裂片をつける・・・・3. *C. pubescens*
- E. 無毛、またはほとんど無毛；葉は、1～2対の幅の狭い羽状の裂片に分かれる
・・・・4. ホソバハルシャギク (グランディフローラ) *C. grandiflora*
- C. 瘦果には、厚くて内巻きの狭い翼がある・・・・5. アウリクラタ *C. auriculata*
- B. 葉は掌状に3つに裂けるか分かれる；瘦果には肥厚部分 (callus) はない。
- C. 葉は有柄で、3枚の披針形の裂片に分かれる、または上部の葉は全縁・・・・6. *C. tripteris*
- C. 葉は無柄。
- D. 葉は硬く、基部の上まで3深裂する・・・・7. *C. palmata*
- D. 葉は基部まで分かれる。
- E. 小葉は全縁；中心花 (筒状花) は黄色・・・・8. マヨール *C. major*
- E. 小葉は1～2枚に分かれる。
- F. 中心花 (筒状花) は黄色；小葉は線形糸状
・・・・9. イトバハルシャギク (パーティキラータ) *C. verticillata*
- F. 中心花 (筒状花) は紫褐色；小葉の幅は2～6mm・・・・10. *C. delphinifolia*
- A. 花柱の先端はとがっていないか丸い。総苞外片は総苞内片より著しく短い。
- B. 瘦果は広い翼がある；一年草・・・・11. *C. cardaminefolia**
- B. 瘦果には翼はない。
- C. 舌状花は、基部が茶色がかった黄色；羽状に分かれた葉をもつ一年草
・・・・12. ハルシャギク (ティンクトリア) *C. tinctoria*
- C. 舌状花は、ローズピンク；線状の全縁の葉をもつ多年草・・・・13. ロゼア *C. rosea*

※United States Department of Agriculture (<http://plants.usda.gov/>) では、*C. crassifolia* は *C. lanceolata* の別名に、*C. cardaminefolia* は *C. tinctoria* の別名になっている。

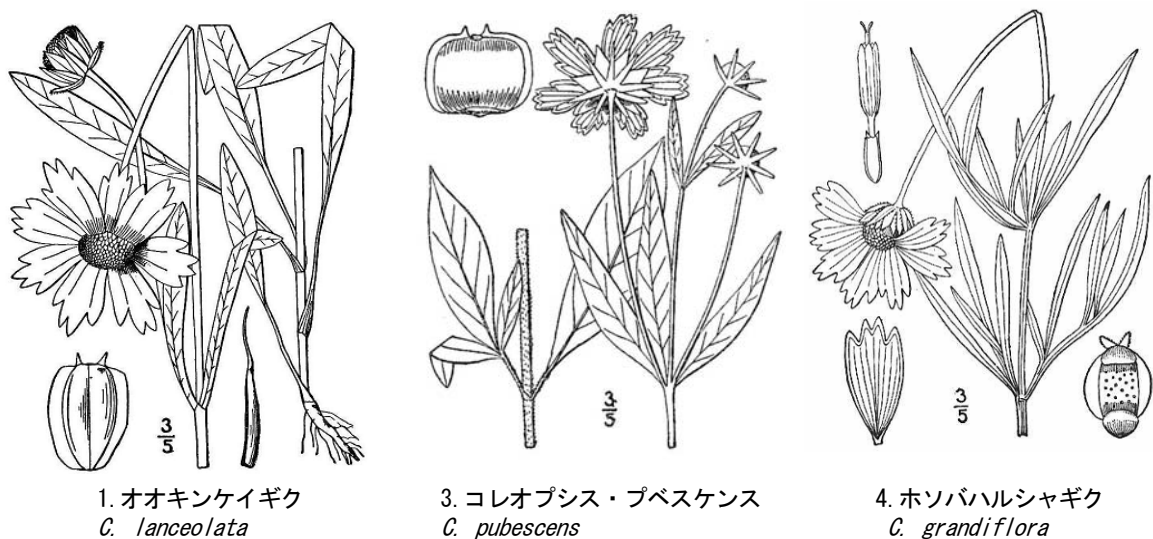


図1 オオキンケイギクの近縁種・類似種 (USDA-NRCS PLANTS Database / Britton, N. L. and A. Brown, 1913)



5. アウリクラタ *C. auriculata*



6. *C. tripteris*



7. *C. palmata*



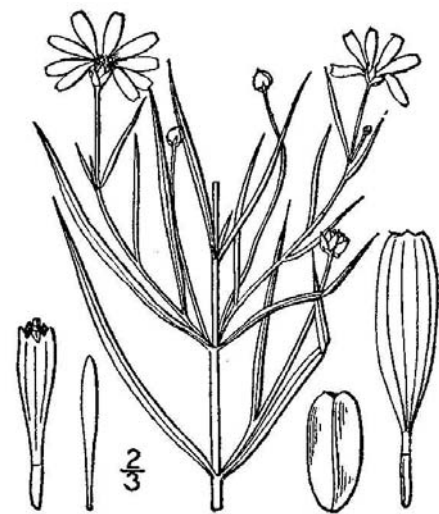
8. マヨール
C. major



9. イトバハルシャギク (バーティキラータ)
C. verticillata



10. *C. delphinifolia*



13. ロゼア *C. rosea*

図1 オオキンケイギクの近縁種・類似種 (続き)

(USDA-NRCS PLANTS Database /

Britton, N. L. and A. Brown, 1913)

合衆国北部と隣接したカナダでみられるハルシャギク属 11 種類の検索表 (Gleason, H. A. and A. Cronquist, 1991)

A. 花柱の付属体は明らかに鋭く、先が尖っている；中心花（筒状花）は5裂が多い。

B. 総苞片は、基部の方は平たい「もみがら」状で、上部は尾状に細くなる。葉は単葉または羽状中裂。

C. 瘦果の翼は薄く、内側に強く巻くことはない；匍匐枝を生じない。

D. 葉は中間または上部につく；花柄はあまり伸びない。

E. 葉は幅広く、単葉または、1～2対の幅広い側裂片がある・・・・・・1. *C. pubescens*

E. 葉は羽状に分かれ、側片は線形または線状尖頭形

・・・・・・2. ホソバハルシャギク（グランディフローラ）*C. grandiflora*

D. 葉は基部だけにつき、長く、葉がついていない花柄が枝分かれする

・・・・・・3. オオキンケイギク *C. lanceolata*

C. 瘦果の翼は内側に強く巻き、末端は厚く肥大する。匍匐枝を生じる・4. アウリクラタ *C. auriculata*

B. 総苞片は線形または線状の棍棒状で、尖っている。葉はほとんど三出状か掌状に裂ける、または複葉。

C. 葉は基部まで裂け、完全な三小葉、またはまれに単葉で全縁。

D. 葉は、明らかに有柄で、三小葉がある、または頂小葉（まれに全部）は全縁・・・・・・5. *C. tripteris*

D. 葉は、完全に無柄。

E. 葉の裂片は披針形、またはより広く、全縁で、幅は約5～30mm・・・・・・6. マヨール *C. major*

E. 葉の裂片の全部または一部は分かれ、最終裂片の幅は0.3～1mm

・・・・・・7. イトバハルシャギク（バーティキラータ）*C. verticillata*

C. 葉は、明らかに基部より上まで三裂し、裂片の幅は約2～7mm・・・・・・8. *C. palmata*

A. 花柱の付属体は短くて鈍く、長さより幅の方が大きい、またはほとんど退化している；中心花（筒状花）は4裂が多い。

B. 舌状花はほとんどまたは完全に黄色い；瘦果は *C. tinctoria* を除き翼がある。

C. 瘦果の翼は深く裂ける；舌状花は全体的に黄色；多年草・・・・・・9. *C. gladiata*

C. 瘦果の翼は全縁、またはない；舌状花はしばしば基部が赤褐色；一年草または二年草

・・・・・・10. ハルシャギク（ティンクトリア）*C. tinctoria*

B. 舌状花は桃色（白色）；瘦果は翼がない；根茎のある多年草・・・・・・11. ロゼア *C. rosea*

ハルシャギク属以外の近縁種・類似種として、同じキク科植物の中の、キバナコスモス *Cosmos sulphureus* (写真 22)、「ウインターコスモス」の名前で販売されているセンダングサ属の植物 *Bidens* sp. (写真 23)、マリーゴールドの仲間 *Tagetes* sp. (写真 24) があるが、葉の形態や開花期が異なる。これらを含めた識別点を表 1 に示す。



写真 22 オオキンケイギクに花が似ているキバナコスモス *Cosmos sulphureus* 花は主に秋に咲き、葉の切れ込みがオオキンケイギクより複雑である (2007. 8. 9 / 東京都江東区木場公園)



写真 23 ウインターコスモス *Bidens* sp. (2008. 5. 31 / 豊橋総合動植物公園)



写真 24 オオキンケイギクに間違えられたことがあるマリーゴールドの仲間 *Tagetes* sp. 花の形は様々だが、葉の縁に鋸歯*がある。(2007. 8. 9 / 東京都江東区木場公園)

表1 オオキンケイギクの近縁種・類似種の特徴

種 名	花の特徴	葉の特徴
オオキンケイギク <i>Coreopsis lanceolata</i> 多年草	 ・開花期は初夏 ・舌状花は黄色（一部の品種は基部が紫褐色） ・管状花は黄色	 ・裂片は楕円形 ・粗い毛がある
ハルシャギク <i>Coreopsis tictoria</i> 一年草	 ・開花期は初夏 ・舌状花の先端は黄色、基部は紫褐色（品種により様々） ・管状花は紫褐色	 ・裂片は線形（細長い） ・毛がない
キンケイギク <i>Coreopsis drummondii</i> 一年草	・開花期は初夏 ・舌状花の先端は黄色、基部は紫褐色（一部の品種は基部も黄色） ・管状花は紫褐色（一部の品種は黄色）	・裂片は卵形（幅が広い） ・毛がある
ホソバハルシャギク <i>Coreopsis grandiflora</i> 多年草だがしばしば一年草として扱われる	 ・開花期は初夏 ・舌状花は野生では薄黄色から金色まで多様（一部の品種の基部は紫褐色） ・八重咲き品種もあり ・管状花は黄色	 ・裂片は細い線状披針形（幅が狭い）（幅が広い品種も多い） ・葉が茎の上の方までつく（下の方にしかつかない品種も多い）
イトバハルヤギク <i>Coreopsis verticillata</i> 多年草	 ・開花期は初夏 ・舌状花は黄色（品種によって淡い黄色や橙黄色） ・管状花は黄色	 ・裂片は線形（細長い） ・毛がない
コレオプシス・ロゼア <i>Coreopsis rosea</i> 一年草	 ・開花期は初夏 ・舌状花は桃色、品種によっては赤紫、白など多様 ・管状花は黄色、品種によって橙色等	 ・裂片は線形（細長い） ・毛がない
コレオプシス・アウリクラタ <i>Coreopsis auriculata</i> 多年草	・開花期は春 ・舌状花は黄色 ・管状花は黄色	・匍匐枝（横に這う茎）を伸ばす ・葉の裂片は先端の一枚が大きい ・毛がある
キバナコスモス <i>Cosmos sulphureus</i> 一年草	 ・開花期は主に秋 ・舌状花は黄色や橙色 ・管状花は黄色や橙色	 ・2回～3回羽状に裂ける（形がより複雑） ・短い毛がある
ウインター・コスモス <i>Bidens ferulifolia</i> 一年草または多年草	 ・開花期は主に秋 ・舌状花は黄色、5枚で幅が広い ・管状花は黄色	 ・1回～3回羽状に裂ける（形がより複雑）
マリー・ゴールド <i>Tagetes</i> sp. 一年草	 ・開花期は春～秋 ・舌状花は黄色や橙色 ・舌状花の先端は裂けない ・管状花は黄色や橙色	 ・羽状に裂けた裂片に鋸歯（ギザギザ）がある

※全て外来植物または園芸植物

【参考文献】

- (1) 安藤敏夫・小笠原亮・長岡求 (2007) 日本花名鑑④. アボック社.
- (2) クリストファー・ブリッケル (横井政人監訳) (2003) A-Z園芸植物百科事典. 誠文堂新光社.
- (3) Britton, N. L. and H. A. Brown (1970) An Illustrated Flora of the Northern United States and Canada. Second Edition Revised and Enlarged Vol. 3. Dover Publications.
- (4) Csurhes, S. and R. Edwards (1998) National Weed Program, Potential Environmental weeds in Australia Candidate Species for Preventative Control, The Director of the National Parks and Wildlife.
- (5) Dave's Garden:<http://davesgarden.com/guides/pf/>
- (6) Gleason, H A. and A. Cronquist (1991) Manual of Vascular Plants of Northeastern United States and Adjacent Canada. Second Edition. The New York Botanical Garden Press.
- (7) 堀田満・緒方健・新田あや・星川清親・柳宗民・山崎耕宇 (1989) 世界有用植物事典. 平凡社.
- (8) JF コードセンター:<http://www.jfcode.jp/index.aspx>
- (9) 神奈川県植物誌調査会 (2001) 神奈川県植物誌. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- (10) 牧野富太郎 (1978) 牧野新日本植物図鑑. 北隆館.
- (11) 農文協編 (2002) 花卉園芸大百科 5 緑化と緑化植物. 農山漁村文化協会.
- (12) 農林水産省植物防疫統計 : <http://www.pps.go.jp/database/index.html>
- (13) 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (1981) 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類. 平凡社
- (14) 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 (2001) 日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会.
- (15) 清水建美 (2003) 日本の帰化植物. 平凡社.
- (16) 杉本順一 (1978) 増補改訂日本草本植物総検索誌 I 双子葉編, 井上書店.
- (17) トニー・ロード、他 12 名 (井口智子翻訳責任) (2005) FLORA フローラ. 産調出版.
- (18) 太刀掛優 (1998) 帰化植物便覧. 比婆科学教育振興会.
- (19) 塚本洋太郎 (1994) 園芸植物大辞典 1 <コンパクト版>. 小学館.
- (20) USDA-NRCS PLANTS Database / Britton, N.L., and A. Brown (1913) An illustrated flora of the northern United States, Canada and the British Possessions. Vol. 3: 491-494.
- (21) 山岡文彦 (1978) 帰化植物 100 種 最も身近な帰化植物 100 種の渡来、形態、生産地、分布. ニューサイエンス社.